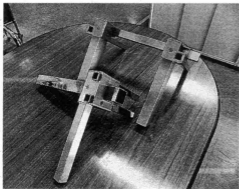


金属パイプ

開発した製品は、様々な金属パイプをいろいろな形状で組み合わせることができる



板金加工のツカサ精密(宇都宮市、渡辺清司社長)は金属のパイプをX、Y、Z軸の3方向から差し込んで組み合わせることができる器具を開発した。溶接しなくても棚などパイプの構造物を組み立てることが可能で、家具メーカーなどが製造コストを減らすことができる。4月にも販売を始め、2〜3年後に年間売り上げ約1億円を目指す。

溶接せず に組み立て

ツカサ精密が器具開発

家具メーカーに的

開発したのはX、Y、Z軸の3方向に穴が開いた箱形の金属製品。棚など金属のパイプを組み合

わせた構造体を製造する際、パイプの接合部分に使用する。3つの穴に金属のパイプを差し込み、ビスで固定するだけでパイプを組み合わせることができる。

パイプを差し込んで組み合わせる製品は他社も作っているが、ツカサ精密の製品は構造が簡素で設計の自由度が高いのが特徴。製品の大きさや穴の形などを変えることで、様々な大きさや形状のパイプをいろいろな形で組み合わせることができる。同社は2月に特許を出願した。

パイプ同士を溶接する必要がないため、メーカーは製造コストを削減できる。製品によっても異なるが、溶接に比べて2

割程度減らせると同社はみている。溶接の手間が要らないため製造時間も短縮できる。溶接によつて生じる製品のゆがみも

防止でき、ビスを外せばパイプの構造物を分解して持ち運んだり、掃除したりできる。

4月にも機械メーカーや家具メーカーなどに販売を始める予定。価格はパイプの大きさなどによって異なるが、1個数百円程度を予定している。

ツカサ精密は1984年創業。測定器や医療機器の板金部品などを手がける。2010年9月期の売上高は約4億円。